

令和元年度
第1回東京都防災・仮住まい検討会

令和元年10月23日（水）

議事要旨

※発言者の敬称略

1 「首都直下型地震時の仮設住宅への対応を考えるワークショップ」について

(1) 今後のワークショップの参加者やテーマ

(浅野) これまでのワークショップでは男女のバランスが非常に偏っている。今後は、バランスを考慮する必要がある。

災害とジェンダーの研究は、アメリカではかなり進んでいるが、ハリケーンカトリーナ時の子育て世代の避難行動に関する論文によると、女性がほとんど意思決定せざるを得ないことがわかる。結局、家族ケアの問題を一手に引き受けているのは女性達であり、女性達がどう考えるかということを考慮しないと、偏ったことになる可能性があると思う。

もう一つは、企業BCPに関連して、首都直下地震が起こった場合には、企業の拠点を都心に置き続けることは難しい可能性があるという点も考慮する必要がある。また、中小零細企業に対しても今後検討していくべき。

(佐藤(慶)) 次回の世田谷区のワークショップは男女比を同じになるようにしたい。

(浅野) 世代はどうか。

(佐藤(慶)) 世代についても多様性を考慮する。

(中西) 社会的弱者は災害時に深刻な状況になる等の問題がある。ワークショップの対象者の選定は、今後とも注意して行っていく。

(浅野) 医療、福祉、介護、教育、暴力の問題等を考慮して対策をとっていく必要があると思う。

(2) ワークショップとリーフレットの関係

(大月) ワークショップの話だが、参加者は生活再建に関して思考停止になってしまう。この状況は、高齢化率が5割を超えている町内会・自治会の人に対して、これからどうしますかと問うと思考停止になってしまうことと似ている。なるべく多くの人が陥ってしまうパターンがあると思う。

震災時も多くの人が陥ってしまうタイムラインに基づいたシナリオの提示をイメージしながら今年度のリーフレットを作ると良い。いろんなきっかけづくり、人間関係が形成されるリーフレットの方が良いと思う。議論が起きないことが目的であるかのようなリーフレットではなく、都民が議論できるきっかけとなるようなリーフレットができると非常に良い。

2 リーフレットについて

(岡本) リーフレット作成では、考えるべき現実のデータを最初のページに示しておく

べきだ。その時に、避難所、仮設住宅、公営住宅という単線型の流れにとらわれない多様な選択肢を示せるように、有識者へのヒアリング等をすべき。

また、生活再建をイメージしてもらうために関連する法制度や知識をリーフレットに提示すべき。私が行っているワークショップでも、法制度等を提示しながら進めており、参加者の防災教育になっている。これを企業の従業員に行うとBCPにつながる。これを受けて、高知県では、監修協力した県作成のパンフレットの中に生活再建の制度が紹介されている。

多様な選択肢については、災害ケースマネジメントの導入を東京都でも検討されるべきだと考える。災害ケースマネジメントによってきめ細やかな支援メニューを構築していけると良い。

また、マンションにおける籠城を前提とした住まいの再建についてもリーフレットに載せた方が良い。

災害救助法に関しては、上乘せの基準をつくって支援していく必要があり、現場レベルでは柔軟な運用が推奨されている。多様な選択肢を知ったうえで市民に提供しなければ、東京都としても支援の漏れが多くなってしまふことを懸念している。

(佐藤 (慶)) 参考になるご意見で、今後の検討に役立てたい。

(石井) 東京都では今年度、避難のためのロードマップをつくっている。あのロードマップは急性期の話だが、そこに、亜急性期、慢性期、回復期等を増やし、同じ形式の中でフェーズによって考えていってはどうか。それは、家族BCPになると思う。検討には、意思決定しなくてはいけない項目を整理しておくことが大事。

先ほど話にあったが、思考停止にならないために、ある程度のアルゴリズムを提示すると、具体的な問題解決に近づけるのではないか。

被災地調査では、在宅被災者の支援事業として個別訪問の話があったが、訪問する主体が集める情報の横のつながりをつくらないと資源の無駄が生じると思う。

住まいについても、ニーズと資源のマッチングをするために横のつながりが必要。

(佐藤 (隆)) リーフレットには、マルチプルにタイムラインをつくっておく。あるいはシナリオシミュレーションでも良い。疎開住宅、みなし仮設、親戚の家、トレーラーハウス等いろんな選択肢を並べておいて、選んだ選択肢に対する支援制度の説明を入れた方が良い。

もう一点、被災者の定義は何なのかを考える。復興とは、医・職・住の復興であり、この3つに照らし合わせて自分がどう被災しているのかなど、災害関連死を防ぐこと等をふまえてリーフレットをつくった方が良い。

(佐藤 (慶)) 多様なパターンや被災者の定義について検討していく。

以上